

03 事例のアセスメントに関する情報

*以下の情報については、その時期に久さんのことを知る関係者を探し、情報を得たものである。

小学6年生の時に受けた児童相談所における判定状況	I Q 6 8 といった記録はあるが、詳しいデータは不明。
教育関係者からの情報	中学の太鼓部の顧問だった先生より、「診断名は『広汎性発達障害』だったと思う。中学一年の頃は、よくしゃべる子だった。張り切って何でもやりたがる子だった。幼い頃は、よく動き回る子だったと母親から聞いたことがある。」という話があった。
中学に入学後に一度母親と相談に行ったことがある専門機関からの情報（年に一回のペースで数回来所、離婚後もしばらく母親が連れて行っていた。真面目で心配性な母親、元々は子どものことを心配している）	「母親がとても心配そうに久さんを連れてきて、『久はやさしい子です。でも乱暴なところがあるからと、学校から追い出されてしまったんです。何ができていないかを知りたいのです。』と訴えてきたので、印象に残っていますとのこと。（以下のことは、5年前の高等部二年生の時の状態について、聴取したことをまとめたもの。） 日付、時刻～よく理解できている。 数、数量～計算には時間はかかるが、二桁までの加減は大体良好。三桁になると難しい。買い物時には、大きな金額の札で支払いおつりをもらっていた。 書字～筆圧が弱く、読み取れない字も多く、線が一本抜けていたり、多かたりする。筆順は自分なりの書き方。 読み～一，二行の文章はわりとすんなりと読むことができていた。難しい漢字でも知っているところがあった。読み違い（勝手読み）は目立っていた。

	聞き取り～一対一での指示は入っていくが、集団における指示はほとんど入らない。特に周囲で誰かが話しているとその話にも気をとられてしまう。三人以上で話し合うことはかなりストレスになる。早合点してしまうことも目立つ。 話すこと～慣れた相手だと、早口になる。筋道の通った話をするのが難しく、何が言いたいのか周りに伝わりにくいことがある。 比較・推測すること～予想することは苦手。どうすればいいのかを考えて、自分の考えを述べることも難しい。自分の意思を言葉で表すことはできるが、誰かに言われたことをまねているだけのことも多い。
特別支援学校高等部の元担任からの情報	指導上の留意点について～ ①同じような内容のことについても、理解できているときとそうでないときの差が大きい。特に集団の場面では、話したことが届かないことは多かった。 ②自分でできないときになかなかヘルプコールが出せない。 ③教えられたことを忠実にやろうとするが、思った通りにならないと、何か理由をつけてやっていることを止めてしまうことがあった。 ④人に認められたい気持ちはとても強く持っており、虚勢を張ってしまうところが度々見られた。 ⑤なかなか伝えたことが身につかないときに、繰り返していねいに声をかけていくと腹を立ててしまうことがあった。 支援目標を達成していく上で効果が認められたこと～ ①作業していく内容については、他の生徒がいない教室で、担任と一対一で見本を示しながら教示していくと、5～6工程の内容でも対応できることは多かった。 ②やるべきことについての内容とその手順は、料理のレシピのように、写真を添えて文章で示すと、自分で確認しながら取り組めることが多くなった。